

福井・一乗谷朝倉氏遺跡

をして城戸ノ内に立ち並んでいたのである。



(永平寺・大野) 一乗谷朝倉氏遺跡
南山町
城戸ノ内町
城戸内町
朝倉氏館跡園
西
(大野)
臣団の屋敷、寺院、商工業者
者の町屋等が文字どおり軒

- 1 所在地 福井県福井市城戸ノ内町
- 2 調査期間 一九八三年(昭58)六月～二月
- 3 発掘機関 福井県立朝倉氏遺跡資料館
- 4 調査担当者 藤原武二
- 5 遺跡の種類 城館・都市跡
- 6 遺跡の年代 一五世紀後半～一六世紀後半
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本遺跡は福井市の東南約一〇kmの谷あいにあり、戦国大名朝倉氏の五代にわたる城郭都市である。足羽川支流の一乗谷川が貫流する谷の一一番狭くなる地点二ヵ所に土塁を設けて木戸としている。この二ヵ所の土塁の間を現在も城戸ノ内町といい、その範囲は南北一・八km、東西一・五kmである。朝倉義景の館をはじめ、家の木簡出土遺構の概要

今回、第四六次調査として発掘調査を実施したのは、城戸ノ内ほぼ中央に位置する字奥真野の地約三〇〇〇m²である。ここは、近くに「サイゴー寺」という通称が残っていたり、近世に描かれた絵図に寺院の名がいくつか書きこまれているなど、かつては寺院がたくさんあったところであるといいつたえられている。事実、第一七・四〇・四四次の調査によつても、この附近一帯に寺院があつたことが明らかにされている。調査の結果、道路二、石組溝一八、石列一二、礎石建物一五、掘立柱建物一、庭園一、井戸五、石積施設九、甕埋設遺構一、藏骨器一九を埋設した墓地一ヵ所等を検出した。

遺構は寺院と町屋に大別でき、A・B地区が町屋、D地区が寺院、C地区が寺院と墓地である。出土した墨書のある遺物は、付札、卒塔婆、こけら経、笠塔婆である。付札は町屋群の中を流れる石組溝SD二六九九とSD二七〇三から、卒塔婆はSD二七〇三からも出土したが、大部分は石積施設SF二七三六から出土した。墓地からはこけら経と笠塔婆が出土した。本格的な墓地の発掘は一乗谷では初めてのことであり、また大量のこけら経・笠塔婆の出土も前例のないことで、戦国時代城下町における寺院墓地のあり方を考える上での貴重な資料が得られた。

8 木簡の釈文・内容

1983年出土の木簡

- | | | | |
|-----|--|-------------------|--|
| (1) | ・「▽一石の内五斗上 | 〔心せ候カ〕 | □ |
| (2) | 「□の△ぬ」 | | |
| (3) | ・「南無妙法蓮華經為□□□□□□□□菩提□□報□」日 ・「諸□徒□□常自□滅相仏子行道□來世得□作□」 (487)×56×1 061 | 146×29×2 051 | (11) (12) (13) (14) (15) (16) (17) (18) (19) (20) (21) |
| (4) | ×華經右志者為妙典靈位孟蘭盆× | (350)×65×1 061 | 「南無妙法蓮華經悲母□境靈位〔幻カ〕」 (520)×52×7 061 |
| (5) | 「南無妙法蓮華經為妙蓮 | (357)×38×1 061 | 「南無安立行菩薩 □〔引カ〕」 (610)×53×7 061 |
| (6) | ・「南無妙法蓮華經為淨清初七日 ・「是人於仏道決定無有疑 | (410)×74×1 061 | 「南無々辺行菩薩 (520)×50×7 061 |
| (7) | 「南無妙法蓮華經為妙□禪尼 永祿元年 七月九日 | (705)×57×1 061 | 「□□慶春童子□ (520)×53×7 061 |
| (8) | 「南無妙法蓮華經為道清聖靈孟蘭盆供養仏果」 753×58×1 061 | (21) ×妙法蓮華經為慶春童子× | ×春童「子脱カ」「周忌也」 061 |
| (9) | 「天文十八年正月十三」× | (520)×50×7 061 | (1) はSD二六九九、(2) はSD二七〇三から出土した。(5)から(7)ま |

した。
(5)から(17)ま

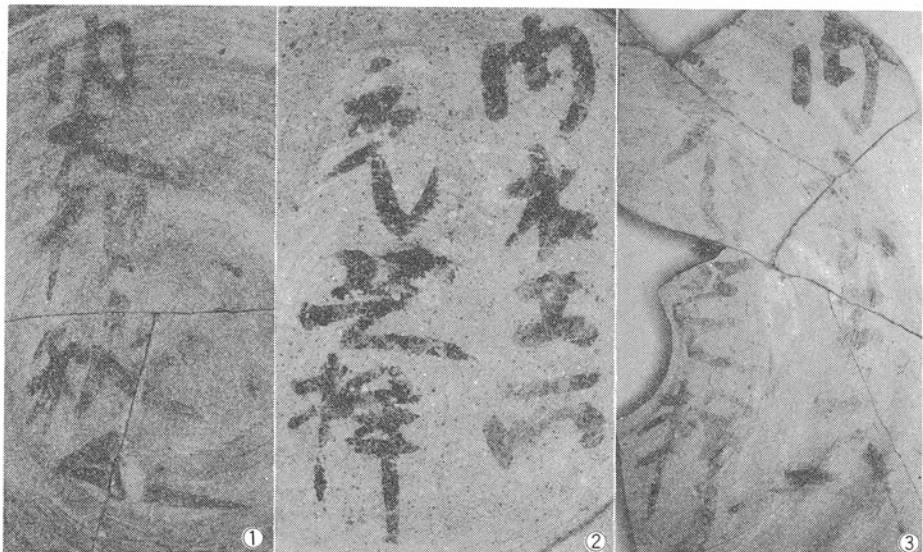
では石積施設 SF 二七三六から出土したものである。(9)から(17)までは九本の卒塔婆の上中下三ヵ所に横木をあてて釘で打ち付けてある。
(18)以下は笠塔婆の断片で、法華題目の下に被供養者の名を記したものである。

この他に、釈文は掲げなかつたが、こけら経と笠塔婆が二万数千点出土した。こけら経は、四千枚程を一束にしたもの二本を一組として、四本が墓地内に柱根のような状態で埋納してあつた。書写された經典は法華經で、經文を書いた右下に「一ノ十七」「一ノ廿一」等と小さく記すものもある。おそらく、經文を写す際の区分を示すものであろう。

9 関係文献

福井県立朝倉氏遺跡資料館『特別史跡一乗谷朝倉氏遺跡 XV 昭和 58 年度発掘調査整備事業概報』(一九八四年)

(清田善樹)



平城宮跡第 157 次調査出土墨書き土器 ①内大炊秋人 ②内木工所充足杵 ③内木工所充足杵